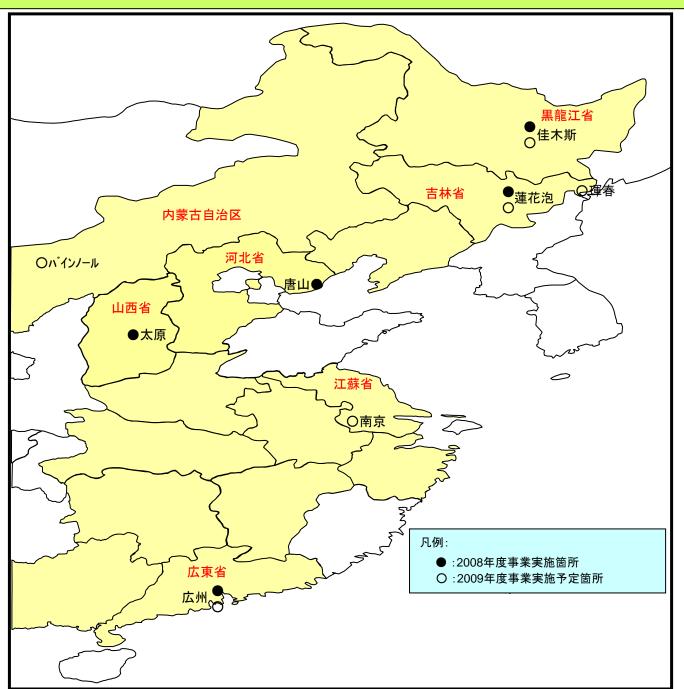
中国各地域の発掘・回収事業について



平成21年2月27日(金) 第2回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議

中国各地域の発掘・回収事業 2008年度実施箇所及び2009年度予定箇所



2008年度中国各地域の発掘・回収事業実績

〇唐山市回収事業

1. 概 要

平成14年5月唐山市路南区の市政施工現場において砲弾等が発見され、中国側専門家の初歩的鑑定により旧日本軍の遺棄化学兵器と判断されたが、安全のため唐山市豊潤区の倉庫に暫定的に保管した。平成16年5月に中国側より通報があり、これを受けて平成16年12月外務省現地調査が実施され、中国側が事前に回収し保管していた砲弾等27発の外観鑑定及びX線鑑定を実施した結果、うち14発が旧日本軍の遺棄化学兵器と確認され仮梱包したところ。平成20年度は、平成16年度の外務省現地調査で仮梱包された計14発の密封梱包を実施した。

- 2. 平成20年4月15日(火)~4月17日(木)(3日間実施)
- 3. 回収結果

①化学砲弾 9発

②炸薬筒等 4発

③不明弾 1発 計14発

〇太原市緊急回収事業

1. 概 要

平成20年4月、山西省太原市杏花嶺区中澗河村の建築現場において200余発の砲弾が発見されたが、安全を確保するため現地公安部門は牛駝村の危険品臨時置き場に運び、埋設した。同月、中国側の専門家が埋設されていた砲弾の初歩的鑑定をしたところ旧日本軍の遺棄化学兵器と判断され、また、化学剤の漏れている砲弾もあり、危険な状態である旨、中国側から通報があった。これを受けて、平成20年4月外務省緊急現地調査が実施され、安全のために埋設されていた砲弾のうち5発を掘り出し外観鑑定を実施した結果、うち4発が旧日本軍の遺棄化学兵器、1発が不明弾と確認されたため、残りの222発を発掘し、選別及び仮梱包を実施した。平成20年度は、外務省緊急現地調査の結果に基づく即応体制発動に伴い、太原市陽曲県において外観鑑定及び密封梱包作業を実施した。

- 2. 平成20年5月8日(木)~5月15日(木)(8日間実施)
- 3. 回収結果

①化学砲弾 149発

②不明弾 78発 計227発 (2)

〇吉林省敦化市蓮花泡(れんかほう)発掘・回収事業

1. 概 要

敦化市蓮花泡林場での2名の子供の負傷事故(平成16年7月)を受け、現地調査を実施した結果、旧日本軍の遺棄化学兵器と確認され、他にも砲弾等が視認されるとともに強い金属反応点が多数存在し、対象範囲が広範囲に亘ることから、農作業などの住民の生活基盤に多大な影響のある畑地から優先的に発掘・回収を開始することとした。平成17年度は8~9月の事前準備作業を経た上で、10~11月に第1次事業(畑地の発掘・回収作業(掘り出し、検知・識別、選別、仮梱包))を行ない、平成18年度は、5~6月に第2次事業(平成17年度に引き続き、畑地の発掘・回収作業)、8~9月に第3次事業(畑地不明点及び林地等の発掘・回収作業)を行い、平成19年度は5~6月に畑地の確認探査、8~9月に第4次事業(平成18年度に引き続き、林地の発掘・回収作業)、10~11月にハルバ嶺保管庫における鑑定・梱包作業(平成19年6月までにハルバ嶺保管庫に保管している砲弾等の回収)を行ったところ。平成20年度は5~6月に第5次事業(畑地の深部磁気異常点発掘・回収作業)、5~6月にハルバ嶺保管庫における鑑定・梱包作業(平成19年度の林地事業にて発掘・回収した砲弾等の回収)、8~9月に第6次事業(林地の発掘・回収作業)、10~11月に第7次事業(第6次の未終了区画及び林地内河川の発掘・回収作業)を実施した。

2. 実施期間

第5次:平成20年5月15日(木)~6月12日(木)(日中共同で29日実施)

蓮花泡回収事業:平成20年5月30日(金)~6月25日(水)(日中共同で27日実施)

第6次:平成20年8月28日(木)~9月24日(水)(日中共同で28日実施)

第7次:平成20年10月18日(土)~ 11月23日(日)(日中共同で37日実施)

3. 発掘・回収結果

第5次:磁気異常反応の大きい5箇所及び日中で合意し、任意に選定した20箇所を発掘したところ、砲弾は回収されず畑地に 砲弾がないことが確認された。(畑地I及び畑地I(民家周辺は除く)は終了。)

蓮花泡回収事業:(昨年の林地発掘・回収事業において発掘した砲弾等729発の外観鑑定を実施し、明らかに旧日本軍の遺棄 化学兵器以外の砲弾等50発を中国側に引き渡し、679発を密封梱包。)

①化学砲弾 3 1 7 発

②炸薬筒等 286発

③不明弾 76発 計679発

第6次:昨年度に引き続いての林地発掘・回収事業。砲弾が集中して埋設されている区画があり、進捗が進まずに35区画で終了となった。(当初は54区画を発掘・回収する予定であり、進捗率は約65%。)残りの45区画は林地内河川発掘・回収事業(第7次)において実施。

①化学砲弾 171発

2)炸薬筒等 137発

③不明弾 111発 計419発

(明らかに旧日本軍の遺棄化学兵器以外の砲弾等13発(中国側に引き渡し))

第7次:第6次の未終了区画(45区画)の発掘・回収及び今年度より3箇年計画で林地内の河川において発掘・回収作業を実施。第6次の未終了区画である45区画の発掘・回収は終了。河川は上流側500mの間を20m間隔で25区画に区画割りし、金属探査を実施。15~18区画の金属反応点15箇所を発掘したところ砲弾は発掘されなかった。河川においては、終了した区画はなく、全25区画は引き続き次年度において作業を実施する予定。発掘した砲弾等420発の外観鑑定を実施し、明らかに旧日本軍の遺棄化学兵器以外の砲弾等41発を中国側に引き渡し、379発を密封梱包。(林地)

①化学砲弾 172発

②炸薬筒等 100発

③不明弾 107発 計379発

(明らかに旧日本軍の遺棄化学兵器以外の砲弾等41発(中国側に引き渡し))

(林地内河川)

①化学砲弾 0発

②炸薬筒等 0発

③不明弾 0発 計0発

(明らかに旧日本軍の遺棄化学兵器以外の砲弾等0発(中国側に引き渡し))

〇佳木斯市松花江発掘・回収事業

1. 概 要

平成18年5月末以降6月上旬にかけ、黒龍江省佳木斯市松花江水域での砂採取作業中に砲弾が発見され、中国側専門家の初歩的鑑定により旧日本軍の遺棄化学兵器と判断されたため、平成18年6月に中国側から通報があった。これを受けて、平成18年6月に外務省現地調査が実施され、中国側が事前に回収し保管していた砲弾10発の外観鑑定を実施した結果、うち8発が旧日本軍の遺棄化学兵器、2発が不明弾と確認され仮梱包を実施した。また、砲弾が発見された付近の水域で実施された金属探査において42箇所で金属反応が見られた。平成19年7月に砲弾埋設推定地域及び同周辺地域において、第1次現地調査(現況調査)を実施したところ。平成20年度は4月中旬に第2次現地調査(GPS機材の運用試験等)を実施し、同年8月から探査事業を行った。

2. 実施期間

第2次現地調査:平成20年4月17日(木)~4月25日(金)(9日間実施)

第1回探查:平成20年8月18日(月)~9月24日(水)(38日間実施)

3. 結果

第2次現地調査:黒龍江省佳木斯市松花江砲弾埋設推定地域及び同周辺地域において、探査基準点の測量及びGPS機材を使用しての運用試験を実施し、移動局データを測定した。

第1回探査:黒龍江省佳木斯市松花江砲弾埋設推定地域において、探査対象区域を確定(400m×1,200m及び30m×150m)。金属探査は対象区域を2m間隔で、それぞれ201測線及び15測線を実施した。また、風等の影響で測線間隔が大きく開いてしまった未測点が392箇所あり、そのうち119箇所の探査を実施した。残りの273箇所は次年度に実施予定。なお、探査の解析結果より841点の磁気異常点を確認した。(約9割は50cm~1m以内の深さ)

〇広東省広州市番禺区(ばんぐう)発掘・回収事業

1. 概 要

- (1) 広州市番禺区の珠江水域における毒ガス事故発生(平成17年6月)を受け、外務省現地調査を実施した結果、旧日本軍の遺棄 化学兵器と確認され、河床面ではさらに砲弾等が視認されるため、緊急に発掘・回収事業を実施し、河床に存在していた砲弾等 を発掘し、回収地点まで運搬後、外観鑑定及び仮梱包を行ったところ。
- (2) 平成20年2~3月は、(1) と (1) の外務省現地調査時及び平成18年2月広州市黄埔区発掘・回収事業と同外務省現地調査時に発掘・回収し、広州保管庫に保管されている砲弾等についてX線鑑定を実施し、砲弾番号を付与した上で密封梱包を行った。また、平成18年5月に日本側国会議員が中国遺棄化学兵器処理事業を視察した際に中国側より突然情報提供され視認した砲弾等については、平成19年12月に現地調査(群星村及び明星村)を行い砲弾の状況等を確認し、住民の安全を早急に確保するため視認されていた砲弾等を含め7発の発掘・回収事業を実施し、外観鑑定、X線鑑定及び砲弾番号を付与した上で密封梱包を行ったところ。

平成20年度は、平成20年12月に群星村及び明星村の珠江水域において、探査事業を行うために探査範囲の確定、測量及び現場周辺の現地調査を実施し、平成21年2~3月において探査対象範囲の金属探査等を実施中。

2. 実施期間

現地調査:平成20年12月15日(月)~ 12月22日(月)(日中共同で8日間実施)

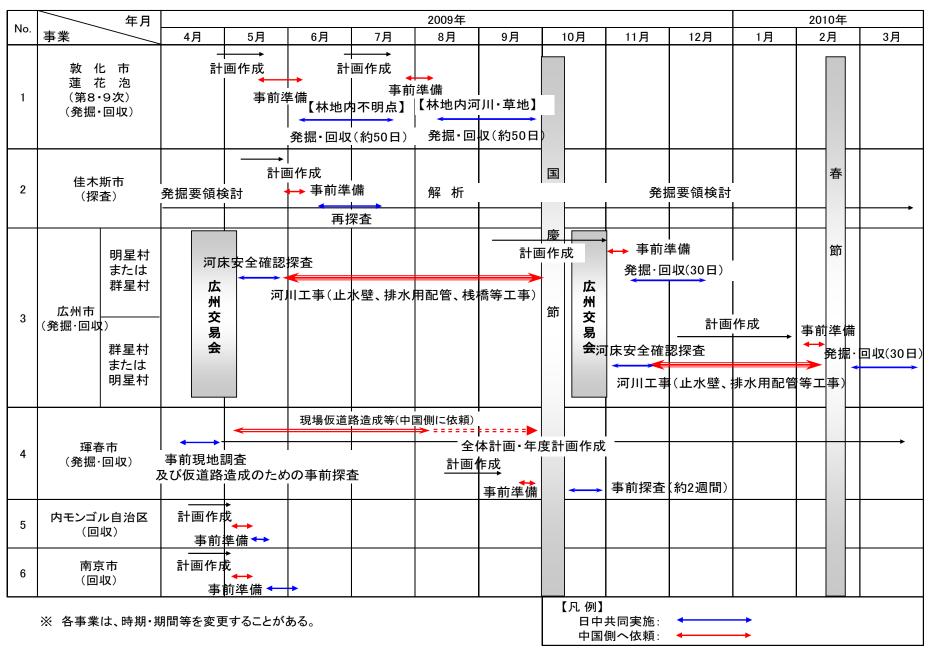
探査事業:平成21年 2月15日(日)~ 3月17日(火)(日中共同で29日間実施予定)

3. 結果

現地調査: 広東省広州市番禺区群星村及び明星村の砲弾埋設推定地域において、それぞれの探査対象区域を確定(群星村68m×193m、明星村58m×118m(群星村、明星村とも、距離は最大幅))し、探査及び発掘・回収を行うために必要な情報収集等を行った。

探査事業:実施中。

2009年度中国各地域の発掘・回収事業計画



No.2 佳木斯市現場



(探査台船) (探査風景)

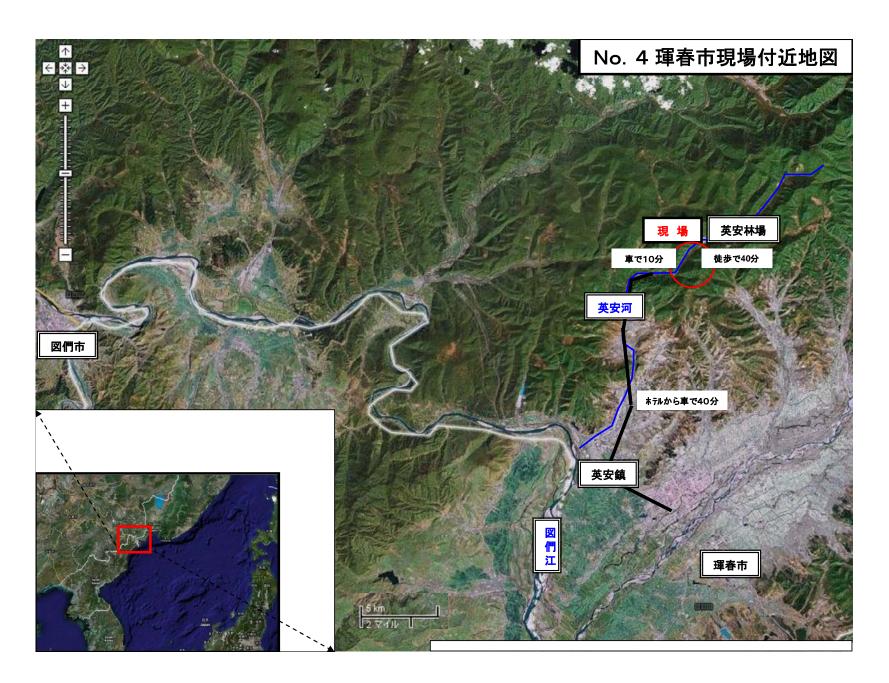
No. 3広州市番禺区の現場



(干潮時) (満潮時)



(満潮時の水上生活家屋)



砲弾発見現場の状況

発見現場への進入路



立入禁止の標識



第3区への進入路



発見現場への山道中間点付近



車両進入限界点(第2区)



砲弾回収地域(第3区)の表示(赤テープ)

